

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901522		
法人名	有限会社 ライフサポート		
事業所名	グループホーム 愛あい		
所在地	旭川市川端町2条5丁目2番3号		
自己評価作成日	平成26年1月8日	評価結果市町村受理日	平成26年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=t_rue&JigyosyoCd=0172901522-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは旭川駅より車で10分程度の住宅街に所在し、周りには良く手入れのされたお庭や菜園畑があり、懐かしい感じのする地域です。お散歩をしていると、お花やお野菜をいただいたりと地域の方々ともなじみの関係を築いています。又当ホームでも菜園を作り、車椅子の方でも作業ができるように工夫しています。収穫されたお野菜を、普段の料理に使い入居者の楽しみとなっています。夏の行事で焼肉パーティの時はご家族と一緒に食事ができるようにしたり、冬には出前を取ったりしながら、マンネリ化しないようにしています。又地域の学生の方々との交流を大切にしています。地域の高校生のボランティアを受け入れたり、教育大の吹奏楽部によるコンサートをホームの前庭で開催し、ご家族や地域の方々と一緒に楽しんだりしています。さらに地域の小学生の総合学習として、見学や交流を行っています。平成20年よりディサービス・ファミリーハウスを併設し、多機能に対応できるような施設となっています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成26年1月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から10年が経過し、地元で根差したグループホーム作りが続けられています。現在は利用年数も増え、利用者の重度化が進む中で、車いすの対応となっている方も増加しています。職員は、利用者の体調管理や少しでも何かができるのではないかと模索し、健康維持や生きがいが見いだせるように取り組んでいます。職員研修も積極的に行い、利用状況に応じた様々なケアに対応出来るように頑張っています。また、ターミナルケアの経験もあり、職員や家族、医療関係者と十分に話し合う事で、要望に応えられるようにしています。ホームの高齢化が進む中で、必要なサービスが受けられるように高齢者向けのファミリーハウスが併設され、デイサービス機能と高齢者福祉の対策にも力を入れています。冬場の除雪は近隣一帯を対象に行なわれると共にホーム駐車場で開催の大学生吹奏楽コンサートには音が聞こえてくる事で大勢の方が集まって来てくれているなど地域住民との交流も図られています。地域と共存し「和気あいあいと楽しく、ゆったり安心して暮らせる・・・」そんなホームを目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「地域や自然に触れ合いながら、ご家族や町の人々との行き来を大切にします」との項目を設けている。又 それをホーム内に掲示したり、職員会議等で職員に周知徹底をしている。	5項目の理念が掲示され、特に職員は「和気あいあいと楽しくゆったりと安心して暮らしていただく・・・」の文言を大切に感じ実践に繋げています。このことは、日常の中で職員と笑いを交えて話したり、一緒に家事に参加する姿やのんびりと新聞や広告を見て寛いでいる様子からも感じ取る事が出来ます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に入会し、町内の役員の方にも、パンフレットや運営規程・重要事項説明書等を配布している。又 日常の散歩などで、地域の方からお花やお野菜等いただいたりして交流ができています。冬の除雪も、困っている方の手助けなどもしている。	職員は町内の役員として、イベントの協力や総会に参加する事で地域の一員として活動しています。教育大の学生が演奏披露するコンサートがホームの駐車場で行なわれ、聞こえてくる音で多くの住民が参集されます。近隣の除雪応援や、夏場の散策時の交流も続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にある学校の学生と交流を行っている。小学生の施設見学・高校生の実習生受け入れ・大学生の吹奏楽コンサート開催等を通して地域に貢献している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員会のメンバーの日程調整等の為、なかなか2か月に1度のかいさいが困難ではあるが、前年より1度でも多く開催しようと、努力している。会議の中で行事等のビデオを見ていただいたり、又欠席されているご家族に、会議録を渡したりして、関心を持っていただくようにしている。	家族や町内会長、地域包括支援センター職員、協力医、設備会社職員が参加し運営推進会議を開催しています。ホームの活動状況や、避難訓練等の報告が行われると共に出席者からの情報交換や講演なども行われています。会議における家族からの提案で動物園の見学が企画され、ボランティアの協力などにより、実践されたこともあります。	運営推進会議での検討は、利用している家族や地域に開かれたサービスの実践、ケアの質の確保を図る事が目的であり、今後は2ヵ月に1回の開催を期待します。現場職員も交え、議事録の充実を図る事で情報の共有に努め、家族からも議題が提示し易い取り組みも期待します
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定例の報告を行い、法令等を遵守するため、ホーム運営について、相談したり、実施指導時に指導された事項について、検討し改善したりしている。又 地域包括支援センターの研修委員のメンバーとなり、地域包括支援センターとの連携も密に行っている。	行政の窓口には直接出向き、更新の手続きや問い合わせ・相談を行なっています。ケースワーカーの訪問もあり、相談や話し合いで信頼関係を築いています。運営推進会議には地域包括支援センター職員の参加もあり、現状報告やアドバイスも頂いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書において具体的内容を掲示し身体拘束を行わないことを明記している。又 身体拘束廃止に向けての取り組みをホーム内に掲示し、色々な危険が予想される場合は、職員会議や引き継ぎ等で拘束しない方法を検討したりしている。リビングには、必ず職員がいる状態を保持できるように職員の体制を整えている。	契約書に身体拘束を行わない具体的内容を定めています。身体拘束をしないケア・虐待の防止に関するマニュアルを備え、毎月の会議で検討や日々の業務で確認しています。外部研修にも積極的に参加し、参加していない職員への伝達研修も行っています。日中は玄関の施錠もなく、職員がいつも目の届くところでケアできるように配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修会に職員が参加し、その内容を職員会議で報告している。又 入居者の身体等に異変がみられる場合等は、その原因を職員で検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の講習会に職員が参加し、その内容を職員会議で報告している。又 必要と思われるご家族には、必要性を説明し活用するよう支援を行っている。昨年手続きを行ったご家族も、後見人が決定した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される時に、入居者及びご家族に契約書や重要事項説明書等の文書を見ながら説明を行い、理解を得ている。又 入居された後でも、疑問等があった場合はいつでも対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会者の記録用紙に、要望等を記入するスペースを設けている。意見箱も設置し匿名での記入もできる。面会時に、なるべく職員がご家族と雑談をして、話しやすい関係を築くようにしている。ご家族から意見や希望があった場合は、職員会議等で話し合いご家族の意向に沿うようにしている。	意見箱の設置並びに家族の面会訪問時に意見等を伺うようにしています。また、管理者や計画作成担当者、職員は話し易い雰囲気作りに努め、意見及び要望等を伺っています。一人ひとりに対して毎月担当者が手書きの「ホームだより」を発行し、笑顔の写真を添え様子を伝えています。要望等が伝えられない利用者には日常の会話や表情を職員が捉え、運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会議を行っている。その時に意見や提案を発言できるようになっている。又 日常的に色々な話をしながら、言いやすい関係を築くようにしている。必要な事項については、改善するようにしている。	毎月開催している会議では、職員から担当の利用者について意見や提案を発言できる機会が十分にあり、意見等は検討して出来ることから、検討し実践に繋げています。職員同士が気軽に意見を出し合い、指摘が出来る関係づくりに努めています。管理者からは気になる事があれば直接悩みを聞いたり、職務に対する相談も適宜行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人役員が所長として、日々の職員の努力や実績・勤務状況を把握している。又 上級の資格を受験したり・研修に参加したりする場合には、シフトを考慮し参加しやすくしている。さらに 休憩時間も通常時には必ず取るようになっていて、有給休暇も交代でほとんど消化できるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介助方法について、職員間で不安事項と思われることは、職員会議で研修を行ったりしている。又 外部の研修を受ける場合は、シフトを調整しなるべく研修を受けるよう努めている。年に1回は全員何らかの研修を受けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協議会に加盟しており、道北ブロック・地域包括支援センターにおいて開催される講習会等に参加し、地域の同業者との交流を図っている。管理者が地域包括支援センターの研修委員として地域との関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が入所を希望されている場合等は、入所前に何度かご自宅を訪問し、お話を聞く機会を設けたり、関連するサービス業者と連携を図ったりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所を希望された時点で、ご本人の状態やご家族の状況をよく聞いて、ご家族の事実認識や感情について知ろうとする姿勢に心掛けている。ご家族が病気等でご本人との関わりを持つことが困難な場合もあり、そのような時はあまりご家族に負担のかからないような連絡方法を取ったりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の訴えが必ずしもご本人の思いや気持ちと同一ではないことがあるので、かかりつけ医や入所前に利用していたサービス業者と連携を図り、他のサービスを利用するよう勧めたり、居宅支援事業者を紹介したこともある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に洗濯物を干したり、お裁縫の仕事をされていた方には、雑巾縫いや繕いものをしていただいたりしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に率直に困っていることを相談し、入所前に対応していた方法を聞いたり、一緒に解決方法を考えたりしている。帰宅願望が強く表れた入所者の方には、ご家族と相談して日中一時帰宅をして、ご自宅で過ごすよう送迎もしている。又 ご家族来所時には、ご家族が出来る介助についてはご家族にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブレクリエーション等で、ご本人のご自宅近くまで行ったり、お盆にはお寺へお参りに行ったりしている。入所前にカラオケ教室に通っていた方も、教室の曜日に送迎の介助を行ったこともある。又 居室にご家族の写真を飾ったり、ご本人が好きだった品物を置いたりしている。	ホームの利用者の重度化が進み、以前の趣味やし好の希望に添えられない場面が多くなっているのが現状ですが、現在出来る事や望まれている事が何かを考え、少しでも想いに添えるように取り組んでいます。家族との交流を大切に考え散髪や外出、息子さんと一緒に温泉に出かける場面も見られます。日本人らしい習慣も大切に墓参りや初詣のお誘いもしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席の配置を、状況に合わせて席替えをしたりしている。ラジオ体操や歌を歌う時間等で入居者同士で関わりあえるようにしている。相手の立場を理解できるように間に入ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される方のご家族の依頼により、希望する事業所を紹介したり、郵便等が届いた場合は、伺って様子を聞いたりしている。他の事業所に移った方については、その事業所から問い合わせがあった場合には、ご家族に確認をしてから、相談に乗ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に生活歴等必要な情報をお聞きし活用している。又 入所者の希望や意向を職員が直接聞いたり、感じ取った時、他の職員にも伝え、日々の介助に反映するように努めている。	センター方式のシートを活用し、利用者の現状に即したケアとなるように家族や職員と話し合っています。日常の寄り添ったケアの中で、会話の中や表情から利用者の思いをくみ取りホームの理念である「ゆったり安心して・・・」も意識しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご本人及びご家族より、生活歴等をお聞きしている。又 普段からの会話の中から聞いた事項については、他の職員にも分かるよう記録用紙を用意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床・就寝時間、食事を摂取した時間や量、一日の過ごし方等を記録に残し、申し送りに検討し、総合的に把握するように努めている。問題点がみられる場合は、センター方式のD-3焦点情報用紙を用いて、現状の把握を行い、問題解決している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議において、アセスメントを行い、職員全員で課題について話し合いを行っている。介護計画については、介護支援専門員がご家族や担当者と一緒に話し合いそれぞれの意見を反映している。又 福祉用具や必要な物品についても、職員間で話し合い、必要な時にはご家族と相談し最善の方法で用意をいただいている。	毎月開催の会議では、担当者が一人ひとりについて計画に沿ったケアが実践されているかモニタリング・評価を行ない報告し、全員で検討して次の計画作成に反映しています。日々の記録についても細かく記載され、ケアの内容が一目で分かるようになっています。今後は利用者の現状もあり、目標の期間を短くし、毎日が評価の対象となるよう検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた個別記録となっており、業務日誌の引継ぎ事項に記入したり、変更事項等は別紙に記録し確認印を押すようにして、見落としのないようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご自宅への一時帰宅の送迎を行ったり、帰宅後ホームへ帰ることを拒否された場合迎えに行ったりしている。希望によりお買い物やお寺へのお参り等を行っている。さらに 季節に合わせた行事もその日の天候に合わせて、予定していない場合でも行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学生との交流を行い、実習生の受け入れ・コンサートの開催・小学生の総合学習受け入れを行っている。又 近くの公園へお弁当を持って遠足に行ったり、動物園へご家族に協力していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけの医療機関に、ホームの看護師による定期受診のサービスを行っている。その都度担当医と相談したり、又 急変があった場合等相談したりしている。	ほとんどの利用者が、家族と相談の上、かかりつけ医を、月2回の往診が有る協力医に変更しています。看護師の定期訪問や主治医の往診もあり、ホームで安心して暮らせるように信頼関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援しています。他の科についても、必要に応じホームで受診支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師には、朝の引継ぎや、職員会議等で情報共有や相談をしたりしている。又 かかりつけ医や訪問看護師と密に連携し通院困難になった場合に備えて往診可能な医療機関を確保している。訪問看護師も週一度来所して健康管理をしていただいている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者が入院した場合でも、病院からの連絡先をホームとしており、情報交換している。入院中においても、職員が出向くようにしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について、ご家族の意向をかかりつけ医と一緒に確認をしている。かかりつけ医と密に連携し、意向に沿って支援している。必要に応じて訪問看護事業所に協力していただいて、ターミナルケアを行った。	ターミナルケア対応も数回あり、その経験から必須書類の整備、家族と十分な話し合い、医師からの説明・相談の場面作り、両者が納得する事で必要なケアが安心して提供出来るように努めています。職員に対しての研修や不安を取り除けるような体制作りを積み重ねています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを作成している。消防署職員による講習会に職員全員が参加するようにしている。そこで 応急手当や初期対応の訓練を行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、年4回の避難訓練を予定し、9月には運営推進会議で地域の方とも打ち合わせをして、夜間想定で避難訓練を行った。その時には、避難場所の町内会館まで避難誘導を行った。ご家族にも参加していただいた。	夜間想定を含め設備会社の協力の下、年4回の避難訓練を続けています。今年度の訓練には、家族や地域の方の参加も頂き、緊迫感や避難の大変さを体感しています。避難場所に直接避難する事も行い、地域住民から自宅も利用して下さいと提案もありました	今後はホームの立地環境から想定される、災害時の対応方法や準備、備蓄の内容について検討を行い、万が一の時の対応に備えられるように家族並びに職員、地域の方々を含め話し合われる事が望まれます。訓練時には、消防署の立会いも依頼し、専門家のアドバイスが得られるような機会も期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の特徴に合わせて、安心するような会話や言葉かけを心掛けている。記録等の個人情報もなるべく目のつかない所に保管している。	書類の管理や声かけする場面の言葉遣い、排泄場面の配慮等利用者の尊厳や人格を大切にするケアに努めています。気になる会話があった時は管理者が注意を促し、会議でも取り上げ確認しています。職員同士が注意し合える環境作りに向け、研修も続けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	テレビ番組で食べたい物があつたり、雑誌を観ていて食べたくなったりした場合等、食事やおやつに取り入れたりしている。又 出前で取る食事を選択したりしている。さらに 余暇の過ごし方を、好みに合わせている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝・食事等その方の生活のリズムに合わせて、提供するようにしている。会話や、生活のペースを把握し、対応するようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節毎に洋服を入れ替えたり、洋服や下着の購入についても職員同行で買い物に出掛けたりしている。お化粧品等の支援もしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の誕生日や日常においても食事の希望を取り入れた献立にしたりしている。又 菜園で収穫したお野菜を食事に使用したりしている。食卓拭き・おしぼりたたみ・下膳等それぞれの能力にあわせて役割としている。	厨房で調理された、職員手作りの食事が提供されています。利用者の身体状況に合わせ、刻みやミキサー食、職員が介助しての食事場面も見られます。利用者一人ひとりが出来る力で準備や後片付けを手伝い、食事が楽しい時間となるように、傍で会話も交えながら一緒に過しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量については確認し記録をしている。ご本人の状態に合わせて、きざみやとろみ等の食事形態にしている。番茶で寒天ゼリーにして水分補給したりしたこともある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内を清潔に保つのは感染症予防ともなることを職員が良く理解していて、毎食後口腔ケアをご本人に合わせて行っている。必要な場合は訪問歯科を利用して、ケアの確認をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者それぞれの排泄パターンをチェック表を用いて、それぞれの時間に応じてなるべくトイレにて排泄できるようにこまめに誘導し介助を行っている。排泄の訴えが頻繁な方には、専門科で受診したりしている。	1人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ排泄を基本に対応しています。利用前の状況がホームの入居により改善された利用者も多く、特に排泄の自立に向けたその人らしい生活のケアに力を入れています。水分補給や食事には繊維質の多い食品を多く利用する事で、自然な排泄が目指せるように努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、食事・水分摂取量・排泄の確認記録を行っている。食材料には、なるべく食物繊維の含まれている材料を使用している。又 お天気の良い日には、お散歩に出かけるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルの測定を行い、ご本人より体調の様子を聞いたりして、入浴のタイミングを考慮している。状況に応じて、シャワー浴や清拭の対応もしている。入浴は、脱衣から入浴・着衣まで一人ひとり介助を行い、ご本人のペースに合わせている。	ほぼ毎日入浴の機会が設けられ、週2回入浴できるように支援しています。同性介助の配慮や、身体状況に合わせ二人介助入浴で、利用者は安心・安全に入浴しています。入浴を拒む利用者へのさり気ない声掛けや家族と協力し外出して温泉に行く等、工夫に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には、畳スペースがあり、布団で眠られていた方は、布団で休めるようになっている。日中リビングで小上がりに横になれるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書等を、職員がいつでも確認が出来るようになっている。又 薬剤師と連携し、助言を受けている。施設内の看護職員より、変更等があった場合は説明を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の出来る事や出来そうなことを見極めたり、ご本からの希望を聞いたりして、若い頃の職業や趣味をいかした役割や楽しみを取り入れている。菜園や花壇の作業・おしぼりたたみ・雑巾縫い・編み物等、冬期間は、職員と一緒に除雪を行った方もいました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏の期間は出来るだけ天気の良い日にはお散歩に出かけたりしている。希望がある場合は、お買い物にスーパーへお連れしたり、ご自宅への一時帰宅の送迎・お盆のお参りにお寺へお連れしたりして、希望される場所へ出かけるようにしている。今年度は、ご家族に協力していただいて動物園へ出かけました。	気候の良い時には毎日出掛け、近所の散歩や日光浴をしています。散歩の時には馴染みのお宅を訪れ、お花や収穫の果物を頂いたり、会話を楽しみながら交流を深めています。年次計画を立て外出行事の実施、時には思い付きで急に出かけたり、近くの公園や季節が味わえる花見等にも出かけ、地域と家族の協力を得ながら外出支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方には、高額でない額のお金を所持していただいて、買い物時等、ご本人の希望する物品を購入する介助を行っている。ただし 現在は物取られ妄想の方がいるので、お金を所持している方はいらっしゃいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、子機を利用し希望された時には、居室で利用できるようになっている。又 手紙についても、希望される時には、代筆をしたりしている。ご家族が地方にられる場合は、毎月のお便りを郵送して、ご本人の様子をお知らせしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、天窓から日が入るようになっていて、リビング全体が明るくなっている。又 小上がりで腰かけたり、横になって休めるようになっていて。窓からは菜園が見えるようになっていて季節毎の楽しみを持っていただいている。トイレもそれぞれの居室から遠くない場所2か所に4個あり、トイレ待ちで失禁等することはない。入居者の方が、入所前に製作した作品も共有空間に飾ったりしている。	隣接するハウスの利用者が毎日デイサービスに通って来られ、グループホームの利用者と一緒に過ごしています。互いの交流の場として、意識や意欲向上に繋がり活気付く機会となっています。天窓から入る明るい日差しの下で、休息できる小上がりを利用したり、一緒にレクリエーションに参加したりして、日中を楽しく過ごす事が出来るように職員が見守っています。リビングの装飾や室温・湿度に気を配り、健康が維持出来るように努め、利用者が快適に過ごせるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにある小上がりの周りには、カーテンで目隠しになっている。廊下の端にソファを置き、共有空間にいても一人になれる空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には、入所の為に新しい物を購入するのではなく、なるべく使い慣れたものを持ち込んでいただくように促している。又 居室には畳スペースがあり、布団を敷いて休めるようにもなっている。ご家族の写真を置いたり、ご本人が好んでいた物を居室に飾ったりしている。	日本の家屋として馴染みのある畳が、居室の一部分を占め直接布団を敷いたり、身体状況に合わせベットを設置する等、暮らし易さへの配慮が見られます。家族の写真や誕生日を祝うメッセージが掲示してあり、自分の居室として安心・安眠できるように使い慣れた家具や寝具、衣類をたくさん持ち込んでいます。洗面台の設置もあり、自立の心を養える居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっていて、廊下・トイレ・お風呂等に手すりを設置している。廊下の幅も広めにして、車椅子の方も自走できるようになっている。居室の入り口には、名前の札を掛けて有り、トイレの表示も見やすいように大きな案内板となっている。		